

# 令和2年度シラバス

## 第1～3学年



北海道北広島西高等学校

### 目次

#### 授業計画書（シラバス）の使い方

- シラバスとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 科目の履修・修得・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - 1 単位
  - 2 履修
  - 3 修得
  - 4 評価・評定
  - 5 試験
- 各科目のシラバスの見方と活用のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  - 1 科目基礎情報
  - 2 学習到達目標
  - 3 観点別評価
  - 4 学習上の留意点

年 組 番 氏名

# シラバスの使い方

## シラバスとは

シラバスは、授業の実施時期と内容、到達目標、評価方法などを示した計画書のことです。本校生徒の皆さんが、この一年間、どのようなことを学び、どのようなことが出来るようになるか（ならないか）が示されています。効率的な学習を進めるため、予習や復習時にこのシラバスを大いに活用してください。

## 科目の履修・修得

学習科目の履修と修得、評価の仕方と成績、定期試験を受ける際の心得など、学習を進めるにあたってしっかり理解しておくべき事項があります。年度の初めには、必ず目を通しておく必要があります。

### 1 単位

単位とは、1年間（35週）にわたって週あたり50分の授業をどれだけ行ったかを示すものです。たとえば、2単位の標準授業時間数は、 $35（週） \times 2（単位） = 70（時間）$ となります。決められた科目を履修し、必要な単位数を修得することで進級・卒業が認定されます。ただし、3年生については、1年間は30週（1単位で30時間）となります。

### 2 履修

皆さんは、学年ごとに定められた教育課程に従って全ての科目を履修します。3月末の時点で標準授業時数の80%以上に出席した時に、各教科・科目の履修を認定します。履修不認定の教科・科目等がある場合、進級や卒業が認められません。

### 3 修得

履修認定された各教科・科目の目標に到達していると判断されたとき、各教科・科目の単位を修得したことを認定します。評定1がついた教科・科目は修得不認定となります。

### 4 評価・評定

各教科・科目の目標達成度を前期期末終了時には10段階評価で、後期期末終了時には5段階評定で示したものです。評価や評定は、シラバスに示された観点別の学習状況で判断します。

### 5 試験

本校では、年間4回の定期試験を実施します。定期試験の結果は、評価や評定を判断するための資料になりますが、その割合が大きいので十分な成果を残せるようにしてください。やむを得ない理由で受験できなかった生徒に対しては追試験を、試験成績が振るわなかった生徒に対しては追認試験を、それぞれ行うことがあります。

#### （1）定期試験

各期（前期、後期）の中間（6月、11月）と学期末（9月、2月）に、それぞれ中間・期末の定期試験を行います。各定期試験の時間割は、試験開始日の1週間前に提示されますが、できるだけ早く試験の準備を開始してください。

#### （2）追試験

病気や、その他やむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった生徒に対して行う試験です。定期試験終了後、3日間以内で実施します

### (3) 追認試験

評定「1」を3科目以上有する生徒は追認試験を受けることができず、同じ学年に留まることとなります。評定1が2科目以内であれば、追認試験を受験することができます。追認試験に合格した場合は当該科目の単位の修得が認められます。

### 各科目のシラバスの見方と活用のポイント

#### 1 科目基礎情報

単位数や使用する教科書など、科目の基本的な情報が記載されています。

#### 2 学習到達目標と到達レベル

ここでは、科目の「学習到達目標」(この授業によって何ができるようになるのか)とそれに対する「到達レベルの目安」(どれくらいできれば、どれくらい評価されるのか)が示されています。

#### 3 観点別評価

その科目の評価・評定の資料とするものが何で、どれくらいの割合で計算するかを示してあります。

#### 4 学習上の留意点

科目で最低限必要な力と、科目の中で社会生活につながる力がどのようなものかを示しています。

科目名		コミュニケーション英語基礎					1	
学年	必修/選択	単位	総時数	使用教科書	JOYFUL ENGLISH (三友社)			
1	必修	2	70	補助教材				
授業の概要		中学校の学習内容を復習しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞く、話す、読む、書くなどの力を、ペアワーク・グループワークなどを通して身に付ける。					2	
学習到達目標		中学校における基礎的な学習内容を理解し、使うことができる。相手の配慮があれば、やり取りを続けられる。						
標準的な到達レベル		身近な場面における英語表現を理解し、使うことができる。ゆっくりとしたスピードで単純なやり取りを続けられる。						
観点別評価 (%)								
	定期試験	Pテスト	ポートフォリオ	課題	授業姿勢		合計	
総合評価割合	50	30	10	5	5		100	
関心・意欲・態度		5	5		5		15	
表現の能力	5	15	5				25	
理解の能力		10		5			15	
知識・理解	45						45	
学習上の留意点								
求められる力(学び直し)	中学校の学習内容を復習しながら、英検4級レベルの語彙・文法力を着実に身に付ける。							4
キャリア教育	ペアワークやグループ活動などを通して、自分の意見を発信する力、異なる意見を聞く力、自ら課題を見つけ、調べる力を養います。							